

# Aviation Safety ニュース

Date 2026.6.2 ASN60-07

## Runway Safety Team (RST) 解説とセミナーのご案内

皆さんは「Runway Safety Team=RST」という言葉をご存知ですか？この用語は2010年頃からICAO（国際民間航空機関）で使用されるようになった、航空安全を達成するための新たな考え方（会議体）を指します。今回はそのRSTをご紹介しますと共に、7月に開催されるRSTセミナーのご案内です。

### Safety Management（安全管理）に基づく新たな枠組み

21世紀以降の航空安全達成に向けた枠組みは、ICAOが策定した「Safety Management=安全管理」の導入に合わせて大きく変わりました。

簡単に説明すると、航空安全に携わる組織は

- ◆ 航空安全の枠組みを構築する安全規制当局 = 「Regulator」 (R)
- ◆ 航空安全の枠組みを遵守する運営者 = 「Provider」 (P)

へ「仕分け」し、それぞれが責任を持って航空安全に携わるというものです。なお、ここで言う運営者=「Provider」とは、具体的に以下のようなものを指します。

- ◆ 航空交通管制機関 (Air Navigation Service Provider=ANSP)
- ◆ 空港管理者 (Aerodrome Operator)
- ◆ 航空会社 (Air Operator)
- ◆ 地上支援業務 (Ground Handling) など

### 日本における「R」と「P」の役割分担の曖昧さ

これら「R」と「P」を日本の組織に当てはめると、以下ようになります。

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 「Regulator」         | → 航空局         |
| 「Provider」の航空交通管制機関 | → 航空局         |
| 「Provider」の空港管理者    | → 航空局、空港会社    |
| 「Provider」の航空会社     | → JAL、ANA等    |
| 「Provider」の地上支援業務   | → 各航空会社の関連会社等 |

Safety Management=安全管理の考え方では、航空規制当局はRegulatorに専念し、その他様々な運営者がProviderとして責任を持ってサービス提供を行うという考え方が通例です。一方、「Regulator」「Providerの航空交通管制機関」「Providerの空港管理者」と言う「R」と「Pの主要2分野」を航空規制当局が占める体制を取っているのは世界の航空主要国で日本のみです。この結果、「日本の安全管理体制は「R」と「P」の境目が曖昧で、責任の所在を不明確にする体制である」と言われても仕方ありません。このことは、是非覚えておいてください。

## Provider間で安全課題を議論する新たな場-RST

Provider 同士の接点となる場所、それが空港です。その空港で Provider 同士が航空安全達成のため、お互いに意見を言えるような場所として ICAO が定めた新たな場が「RST=Runway Safety Team」です。その RST では様々な事象に対してリスク評価を実施し、航空安全を達成していこうというのが基本的なコンセプトです。現在、世界中の主要国際空港で RST が運営されており、Provider 同士の意見交換が活発に行われています。

航空安全会議はこうした Provider 同士が本音ベースで議論し、また多角的な意見を取り入れリスク評価を実施することが必要不可欠であるということから、日本における RST 設置を 10 年以上に渡って説いてきましたが、航空局は RST を重要視せず、一部の空港のみで細々と実施されてきたというのが実態です。

2024 年 1 月の羽田空港で発生した航空機衝突事故が発生したことがきっかけとなったのは非常に残念ですが、ようやく日本でも RST の枠組みが整備され、2025 年 12 月に法制化が実現しました。2026 年現在、日本で RST が導入されているのは 8 空港（新千歳、成田、羽田、中部、伊丹、関西、福岡、那覇）です。

航空安全会議は、ICAO マニュアルに記載されている RST 参加資格者リストに基づき上記 8 空港 RST への参加を求めています。2026 年現在、参画出来ているのは伊丹 RST のみです。

## 伊丹RSTが主催するRSTセミナーのご紹介

その伊丹 RST で今般、「RST の理念と目的～滑走路の安全のために～」をテーマに安全セミナーを開催することが決まりました。これをご覧になっている皆さまは全て Provider の立場にありますから、RST 参加資格をお持ちです。さらに、あなたの会社の管理職も皆、Provider の立場ですので RST の参加資格があるというのが通常の枠組みと異なる大きな特徴です。今回のセミナーはそんな RST に触れる絶好のチャンスですので、ちょっと覗いてみませんか？

### 伊丹 RST セミナー「RST の理念と目的～滑走路の安全のために～」

主催： 関西エアポート（伊丹空港管理会社）

参加者： 全国の航空会社及び関連会社社員、空港事務所職員、管制官、  
運航情報官、管制技術官、その他 Provider 全関係者

日時： 2026 年 7 月 7 日 14:00～16:00

場所： 伊丹空港ターミナルビル 4F「星の間」／オンライン

プログラム：第一部「2025 年度活動報告」

第二部「GAPPRI について」

第三部「ヘリパッド運用について」（仮）

第四部「滑走路誤進入対策について」

申し込み方法その他の詳細は、次ページのポスターをご覧ください。

以上

更なる安全性の向上のために

# 伊丹 RSTセミナー

2026

7.7 火

14:00～16:00

オンライン参加可

セミナーテーマ

## RSTの理念と目的～滑走路の安全のために～

伊丹RSTは2019年に国内では3番目のRSTとして発足しました。  
本セミナーでは、RSTとその理念、目的についてご紹介するとともに、伊丹RSTの活動を広く理解していただくため、活動の一部をご紹介します。

### RSTとは

#### 大阪国際空港RST ～Runway Safety Team～

滑走路等の安全に関する課題について検討し、リスク分析を経て防止策の策定又は提言を行い、滑走路等の更なる安全を目指す活動を行っています。



### 会場案内

大阪国際空港  
ターミナルビル4F「星の間」



オンライン参加可

### プログラム

#### 第一部 伊丹RST事務局

『2025年度活動報告』

#### 第二部 日本航空(株)

『GAPPRIについて』

#### 第三部 読売新聞社

『ヘリパッド運用について』 仮

#### 第四部 大阪国際空港 航空管制官

『滑走路誤進入対策について』

お申込み  
お問合せ

6月30日までに右のQRコードからお申し込みください。

✉ mariko.oda@kansai-airports.co.jp

【主催】伊丹RST事務局

